



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積12.15ha
(田11.51ha、畑0.64ha)
- ・資源量 水路2.9km、農道3.5km
ため池1箇所
- ・主な構成員 水利組合、営農組合
自治会、青少年育成
委員等
- ・交付金 約1百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

みなみがいとしげんほぜんかんりくみあい

みずなみし

南垣外資源保全管理組合（岐阜県瑞浪市）

- 南垣外資源保全管理組合は、農業者の減少と高齢化が進む当地域において地域資源を維持するため、多面的機能支払交付金の前身である農地・水・環境保全管理支払交付金事業の実施団体として設立された。
- 地域の北部に位置する大洞ため池は、長年この地域の農業用ため池として使用、管理が行われていたが、老朽化により安全性が懸念されていた。
- 本組合が中心となり防災対策を進めた結果、ため池の安全性が改善され、地域での管理体制を整えることで、防災力の強化につながっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域の北部に位置する大洞ため池は、長年地域の農業用水として管理、使用されていた。
- 施設の老朽化に伴い、漏水や土砂堆積による貯水容量の低下がみられ、豪雨時の堤体決壊等が懸念されていた。
地元での修繕等は行われていたが、費用等の問題があり、大規模な改修工事は難しい状況だった。



地元によるため池点検



改修前の大洞ため池

取組内容



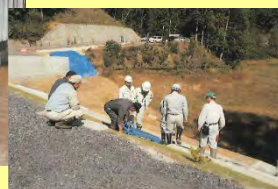
- 他県でのため池決壊による土砂災害が注目されたことを契機に、組合が中心となり施設診断等の防災対策の推進を行った。



- 防災対策の推進以外にも、自治会と共同で行った管理研修会等で、点検管理体制を新たに構築し、地域でため池を守る活動を行っている。



防災対策の推進会議



施設の点検管理研修会

取組の効果

- 施設診断の結果、ため池改修の必要性が認められたため、県営事業を利用して工事を実施。ため池の貯水機能、安全性が大幅に改善した。
- 大洞ため池の保守管理や点検は、農業者以外の住民を含めた人員(R4実績19人)で行っている。地域ぐるみで管理体制を整え、ため池の存在を周知することで、防災力の強化を図っている。



改修後の大洞ため池



ため池の維持管理状況



農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

山間農業地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

まぜふるさときょうどうたい
馬瀬ふる里共働隊

げろし
(岐阜県下呂市)

- 本地域の農村の有する農地、農業用水、豊かな自然、美しい景観は、昔から農業集落に住む農業者らの伝統的な共同活動によって守られてきた地域である。
- 近年、少子高齢化、農業の担い手の減少、非農家世帯の増加が進み農家だけの共同活動が困難となり、地域全体の自然環境、生活環境への悪影響が懸念されていた。
- 当活動組織は、平成19年度から本交付金を活用し、農家、非農家、団体等が一つにまとまり、農地保全活動、農村環境保全活動の取り組みを行うことで、美しい農村景観の維持が図られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積66.03ha
(田50.77ha、畑15.26ha)
- ・資源量 水路33.6km
農道8.3km
- ・主な構成員 農業者、自治会
学校、他団体 等
- ・交付金 約4.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 少子高齢化、非農家世帯の増加が進み、農業者だけでは農地周辺の維持管理が困難となった。
- 遊休農地等に繁茂した雑草が増え鳥獣による被害の増加が進み、鳥獣被害防止柵の設置や適正な維持管理が必要となった。
- 美しい景観を維持するため、地域ぐるみで保全活動に取り組む体制を維持し、若い世代へ継承していく仕組みづくりが課題。



高齢化による荒廃農地 遊休農地の管理

取組内容

- 鳥獣被害防止柵を他の補助事業を活用して集落全体に設置を行い、地域住民による点検・補修、周辺の草刈り等の維持管理を実施。
- 毎年8月第1日曜を馬瀬地域の「美化の日」とし、子供からお年寄りまで住民全体で花壇の管理、農地・農道や施設周辺の草刈りを実施。
- 地区対抗での「草刈コンテスト」や子供や観光客などに「農業農村」を身近に感じてもらうため「かかしコンテスト」を実施。



鳥獣柵の維持管理



美化の日の共同活動

取組の効果

- 鳥獣被害防止柵を他の補助事業により、これまでに約21km設置。多面的交付金を活用した適正な維持・保管理により、農作物被害額が減少。
被害額: (H26) 600万円 → (R4) 120万円
- 地域住民総参加による保全活動を毎年実施され、共同意識が高まり一体感が生まれる。日本の里山の原風景が残ると評価。
(H19「日本で最も美しい村連合」に加盟)
- 地元小学生を対象とした、田植え・稲刈り体験を実施し、農村文化の伝承を通じ地域のコミュニティを図った。
(小学生・農家・保護者 延べ70人参加)



地元小学生による田植体験 保全活動された農村風景



外来種駆除による農村環境の保全・向上の推進

都市的農業地域



キーワード

農村環境の
保全・向上

組織の広域化
・体制強化

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積571ha
(田429ha、畑142ha)
- ・資源量 水路124.9km
農道118.9km
- ・主な構成員 耕作委員会、町内会、こども会等
- ・交付金 約33百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

しんでんこういききょうていうんえいいんかい

にしおし

新田広域協定運営委員会 (愛知県西尾市)

- 新田広域協定運営委員会は、平成19年度から本交付金による取組を実施している。
- 本組織の特徴として、設立当初から広域組織として活動しており、耕作委員会及び町内会が一丸となってジャンボタニシの駆除や水質の保全活動を実施している。また、地元の小学生を対象とした生き物調査を実施している。
- これらの活動により、ジャンボタニシによる稲の食害が減少や、地域の水質の保全、地域の生態系保全への関心向上などが図られており、地域環境の保全・向上に繋がっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域では、外来種であるジャンボタニシが用水路や水田に繁殖し、稲への食害が見られた。
- ジャンボタニシの繁殖は生態系への影響が危惧されるため外来種の駆除を地域ぐるみで取り組む必要があった。
- 水田から排水をする際に、外部に濁った水が流出してしまい、地域の水質に悪影響を及ぼす恐れがあった。

取組内容



- ジャンボタニシ等の外来種駆除(年2回実施)



- 地元の小学生を対象にした生き物調査を実施し、捕獲した生き物は小学校の理科の学習に活用(年1回実施)



- 止水板を利用した水田の排水管理



生き物調査

取組の効果

- 継続的な外来種の駆除により、ジャンボタニシによる食害が徐々に減少している。
- 小学生を対象にした生き物調査では、児童や保護者等が5年間で累計273名参加し、生態系保全に対する意識の向上に繋がった。また、捕獲した生き物は学校へ持ち帰り、理科の教員の指導の下、飼育を行うことで地域の自然や生き物への関心を高めることができた。
- 止水板を利用して水田の排水管理をすることで、濁水の流出を防止し、地域の水質を保全することができた。



ジャンボタニシの駆除 止水板を利用した排水管理



田んぼアートによる農山村活性化の推進

都市的地域・
平地農業地域



キーワード

地域資源の
安全管理

組織の広域化
・体制強化

みどり

いせし

水土里プロジェクトおばた（三重県伊勢市）

- 当組織は、旧度会郡小俣町の15集落で構成される 広域活動組織で平成20年より本
交付金による取組を実施している。
- 地域の農業に対する関心が薄れているという課題に対し、平成27年度より「田んぼ
アート」に取り組み、地域へ農業のPRに加え、稲作体験を通じた地域の子供達への
教育の場を提供を行っている。
- 「田んぼアート」の取組には地元企業等の協力など地域ぐるみで関わっており、地
域の活性化に繋がっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積277ha
（田223ha、畑53ha）
- ・資源量 水路88.9km
農道 5.4km
- ・主な構成員 小俣町土地改良区、
地域水利組合、農家組合
地域小学校、幼稚園 等
- ・交付金 約20百万円(R4年度)

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 本地域の地形は概ね平地
であり、近年パイプライン
化もされた優良農地が広
がっているが、ほ場整備さ
れた年代が古く、1反区画
の田が大部分を占めている。
- また、社会情勢の変化に
より耕作をやめる農業者が
増えるなど、地域の農業に
対する関心が薄れてる。
- このことから、地域や将
来を担う子供たちに農業へ
の関心を持ってもらうため
の取組を模索していた。

取組内容



- 地域に対し農業のPRとなる活
動を模索していたところ、やぐ
らの設置や測量等の協力を企業
から得られたことにより「田ん
ぼアート」が実現した。
- 「田んぼアート」の取組では
子供たちがデザインの作成や稲
作の一連の作業を担当しており、
農業についての教育の一環と
なっている。



明野小生による田植え



小学生児童が稲刈りと
足踏み脱穀機を体験

取組の効果

- 絵柄が映える6月後半には地域内
外より多くの見学者が訪れるが、地
元企業の協力により鑑賞のためのや
ぐらが設置するなど、地域ぐるみで
取組を行うことで、地域の活性化に
繋がっている。
（H27～R5：9回実施）
- 農業体験では作付けから収穫まで
の作業に加え、収穫したもち米を
使った餅つきを行うことで、食の大
切や収穫の喜びを地域の子供たちに
伝えることができています。



田んぼアート(高見やぐらから撮影)



企業との連携による里地里山の保全活動

平地農業地域



キーワード

都道府県独自の取組

組織の広域化・体制強化

すがしうださたおきかんきょうほぜんかい
清し有田佐田沖環境保全会

わたらいぐんたまきちょう
(三重県度会郡玉城町)

- 当組織は、平成24年より本交付金による取組を実施した、11集落、6団体からなる広域活動組織であり、平成29年度から新たに長寿命化に係る活動を開始。
- 三重県の「三重のふるさと応援カンパニー推進事業」により、当組織による里地里山の保全活動に関心を持った企業（2社）と連携し、里山保全のための清掃活動や生物の安定した生息空間を維持するためのビオトープ整備を実施している。
- ビオトープに係る活動は企業による作業人員の協力のもと継続されており、子供たちや地域住民の生物観察・環境学習の場として活用されている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積332ha
(田302ha、畑30ha)
- ・資源量 水路39.7km、農道12.9km、ため池4箇所
- ・主な構成員 11集落、土地改良区、共同活動サポート隊、小学校PTA、老人会、環境を守る会、農地管理団体
- ・交付金 約22百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 生活の変化や高齢化等から、里地里山の維持管理が困難となってきたことにより、遊休農地の増加、獣害被害の増大、景観の荒廃、生物多様性の損失など様々な課題が生じてきた。
- このため、現状調査やCSR企業説明会の開催などを通じ、里地里山の様々な価値を共有可能な企業・団体等に保全・再生活動への参加を呼びかけ、課題解消の取組みに着手した。

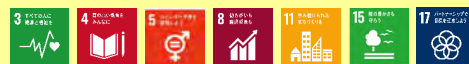


企業との協定：締結式



CSR企業説明会

取組内容



- 三重県では、企業と農山漁村の双方にメリットがある関係を構築するための支援として「三重のふるさと応援カンパニー推進事業」を実施している。
- この事業を活用し、地元での社会貢献活動の拡大を模索していた企業やこれまでも環境保全活動に積極的であった企業と連携し、里山保全のための清掃活動やビオトープ整備などの活動を行っている。



ビオトープを整備した谷津田周辺

取組の効果

- 平成30年より取り組んでいるビオトープに係る活動では、定期的な除草や竹等侵入樹木の伐採作業、観察用木道等の整備など、人員を多く要する作業が必要であるが、人員確保においては企業からの協力もあることが、継続的な活動に繋がっている。
- 令和3年度からは、地域住民や地元小学校の子どもたちの生物観察・環境学習の場として活用を始めている。



木道の整備



生き物観察会



デジタル技術を活用した広報活動

都市的農業地域



キーワード

デジタル技術
の活用

なかね ほぜんかい
中根みどり保全会

とよたし
(愛知県豊田市)

- 平成19年度から本交付金による取組を実施している。
- 本地域では、小学校・こども園・子ども会とも連携し、稲作体験、植栽活動、環境美化活動など様々なイベントを開催している。
- その一方で、所有農地への関心低下や農業者の高齢化による共同活動の継続が課題となっている。
- このため、非農家を取り込み、組織を活性化させるために、令和3年度からIT分野に詳しい若手を新たに広報担当として組織に迎え入れ、広報活動に力を入れている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積19ha
(田18ha、畑1ha)
- ・ 資源量 水路9.0km
農道2.3km
- ・ 主な構成員 農事組合、土地改良区、小学校等
- ・ 交付金 約0.9百万円(R4)

農地維持
支払
4

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、農地と宅地が混在しており、所有農地への関心低下や農業者の高齢化が課題となっている。
- 地域の共同活動を継続していくためには、非農家を含め活動を広く知ってもらうための広報活動が重要。



活動区域
(ドローンによる撮影)

取組内容



- IT分野に詳しい若手を広報担当として組織に迎え、小型カメラやドローンを活用した活動記録をYouTubeにて公開するなど、幅広くかつ効果的な広報活動を実施。



YouTube
チャンネル



YouTubeを活用した広報活動

取組の効果

- 地域の子供達と連携して行った稲作体験やコスモス植栽などの動画を公開することで、活動の趣旨や取組内容などの幅広い周知に繋がっている。
(R5.10月時点で動画22本を公開中)
- 令和4年度においては、活動参加人数の約5割が非農家であったことから、ITによる広報活動による、組織力の活性化が感じられる。



稲作体験の様子



小学生の稲作体験の様子
(ドローンによる撮影)



女性の発想と力を生かして

中間農業地域



キーワード

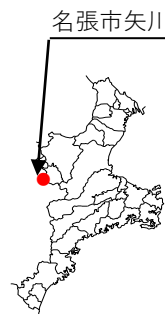
若者・女性などの多様な参画

やがわかんきょうほぜんかい

なばりし

矢川環境保全会（三重県名張市）

- 平成20年より本交付金による取組を実施している。
- 本組織は役員に女性を配置し、地域の農業資産の維持管理・環境保全の活動・世代間交流などに住民ぐるみで取り組んでいる。
- 活動開始以前は農地や水路等の維持管理が困難であったが、女性役員の意見・提案等により、農家・非農家が互いに補完、協力する体制が構築された。
- また、「花いっぱい活動」として農地法面のシバザクラ植栽や休耕田の菜の花植栽が行われるようになり、SNS等でビュースポットとして紹介され、観光客も訪れるようになった。



名張市矢川

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積28.3ha（田28.3ha）
- ・資源量 水路6.4km、農道4.7km
- ・主な構成員 農業者45名、非農業者26名
子供会、その他団体
- ・交付金 約1.53百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本組織は、平均年齢57歳 高齢化率50.2%であり、農業従事者の高齢化、担い手不足により、農地や水路等の維持管理が困難であった。
- 高齢化・過疎化・担い手不足に伴う集落の衰退に対し、今後どのように地域を活性化させていくかが課題であった。
- 農家だけでなく、非農家等も参加し、補完、協力できるような体制の構築が必要であった。



活動エリア位置図

取組内容



- 非農家等も活動に巻き込むには女性視点の活動が必要と考え、活動に積極的な女性に役員になってもらうよう声をかけ、現在は役員15名中、女性が4名就任している



- 環境美化や世代間交流事業の企画にあたり積極的に女性役員から意見が提案され、非農家女性を巻き込んだ「花いっぱい活動」などを展開



芝桜の植栽



花の植栽

取組の効果

- 女性役員が複数名いることで、役員会議で多様な意見が出るようになり議論が活発になった。
- 活動（特に植栽活動や世代間交流活動）において、こどもや親子の参加が増えた。
- 「花いっぱい活動」により、農地畦畔や休耕田を利用した芝桜、菜の花の植栽がSNSビュースポットになり、観光客も訪れるようになったことで、活動の取組意欲が向上した。

SNSで話題の
ビュースポット

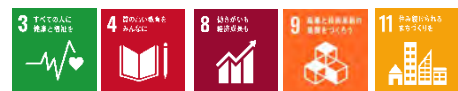


非農家も含めた
共同活動



田んぼダムによる自然災害の防災・減災

平地農業地域



キーワード

地域防災の取組み

ももぞのせいぶ そうほぞんかい つし
桃園西部デンジ草保存会（三重県津市）

- 当組織は、平成20年より本交付金による取組を実施した津市牧町、川方町、新家町で活動する組織である。
- 本地域は雲出川下流部に位置し、地盤が低く、近年の激しい大雨により浸水被害を受けたことから平成27年度より田んぼダムに取り組んでいる。
- また、本地域にはシダ植物としては特異な形を持つ希少植物の「デンジ草」が生息しており、「デンジ草」が生息している畦畔等の保護活動や、子供たちに「デンジ草」についての学びの場を提供するなど、将来にわたり「デンジ草」が絶えないように取り組みを行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積30.6ha
(田29ha、畑1.6ha)
- ・ 資源量 水路 7.6km、農道 4.8km
- ・ 主な構成員 自治会(水利組合、農家組合)、土地改良区、子供会 等
- ・ 交付金 約2.3百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 当地域は雲出川下流部に位置し、地盤が低く、近年の激しい大雨により、農地及び道路の浸水被害を受けたこともあり、治水対策が課題であった。
- 当地域では、希少な植物「デンジ草」が自生しており、その保存に取り組んできた。



活動エリア位置図

取組内容

- 田んぼダムの取組においては、「デンジ草」の保存を兼ねて畦畔の維持管理を実施。
- 田んぼダムに使用する堰板には間伐材を活用。
- 子供会と一緒に「デンジ草保存田」をつくり、農業体験や環境学習の場を提供。



田んぼダム取組状況

取組の効果

- 田んぼダムの取組による畦畔の維持管理により「デンジ草」の生育環境も保全されている。
- 間伐材の利用した堰板でも田んぼダムの効果は発現しているうえ、循環型社会の一助にもなっている。
- 子どもたちとの「デンジ草」保存の取組により、現在もデンジ草が保護され生育している。

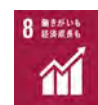


デンジ草保存田での田植え



教育機関との連携について

都市的農業地域



キーワード

連携 教育機関との

活動実施の工夫 コロナ禍での

とみおかかんきょうほぜんきょうぎかい
富岡環境保全協議会

せきし
(岐阜県関市)

- 富岡環境協議会は、平成19年度から交付金による地域の資源維持管理を地域の住民の方々の協力を得ながら進めてきた地域である。
- 本地域は、農業普及の観点から、平成19年度より教育機関との連携に取り組んでいる。
- 子供たちを対象とした営農体験では、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は稲刈りのみ実施、令和3年度は役員による稲作の実演を学校での勉強会としていたが、令和4年度は田植と稲刈り体験学習を指導することができた。継続的な活動の結果、子どもたちの農業への理解向上が図られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 94.37ha
(田79.54ha、畑14.83ha)
- ・資源量 水路15.7km 農道11.2km
- ・主な構成員 農業者、自治会、農事改良組合等
- ・交付金 約 5.2 百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の減少と高齢化により休耕田が増加
- 農家の減少に伴い、子供達をはじめ若い世代が米作りを体験する機会が減少
- 米は「スーパーで買うもの」との思いがあり、昔のように家族総出で米を大切に守り育てる感覚が、失われつつある



休耕田の状況

取組内容



- 子供達が農業に興味を持てるよう、活動組織から地元小学校に働きかけを行い「田植・稲刈り体験学習」や「昔・現代の農機具の学習」などを実施



- 体験学習では、休耕田を活用して、子供たちができるだけ多くの作業を体験できるように工夫
- その他にも景観形成活動として長良川鉄道沿いの休耕田に菜花を植栽



体験学習の実施状況



農機具の学習指導

取組の効果

- 田植、稲刈り体験学習後のアンケートでは、「自分たちで作ったお米は美味しかった」や「米作りの大変さがよく分かった」等の感想が多く寄せられ、子供達に米作りの苦労や喜びを身近に感じてもらうことができた。
- 農機具の学習は、農機具の発達を実物にふれながら学ぶ場となっており、今と昔の作業の違いなど、子供たちの営農に対する知識を深めることができた。
- 長良川鉄道沿いに菜花を植栽することで、地域資源となり得る景観が形成された。



体験をした小学生による
お礼の文集



菜花が植栽された長良川鉄道
沿いの景観



共同活動による除排雪作業の取り組み

山間農業地域



キーワード

都道府県独自の取組

まきどのうちほぜんかい
牧戸農地保全会

たかやまし
(岐阜県高山市)

- 令和4年より本交付金による取組を開始。
- 本地域は、気候を活かした高冷地野菜の栽培が盛んであり、そのための農業用水は国営事業で整備された揚水機場からの取水に依存している。
- 冬期の積雪量が多いことから、積雪期間における揚水機場の維持管理が困難であることから、稼働が高冷地野菜の栽培期間に間に合わないことが課題であった。
- そのため、岐阜県独自の取組である施設の適正管理のための除排雪として用排水機場までの除排雪を実施している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積5.27ha
(畑3.43ha、草地1.84ha)
- ・資源量 水路2.9km
農道3.0km、ため池1箇所
- ・主な構成員 農業者個人(牧戸団地、組合員)、土地改良区
- ・交付金 約160千円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域では積雪量が多く、積雪期間中は揚水機場までの管理道が通行不可となるため、例年融雪後に運転確認等を実施してから揚水機を稼働していることから、この管理道の除雪が課題であった。

12月	1月	2月	3月	4月	5月
積雪期間					
			融雪後に点検し稼働		
			除排雪の取組により3月上旬から稼働		

取組内容



- 施設の適正管理のための除排雪として、揚水機場までの管理道の除排雪作業を2月下旬に行い、揚水機場の運転確認等を実施している。



除排雪の作業状況

取組の効果

- 除排雪の取り組みを行ったことにより積雪期間でも揚水機場の運転確認が可能となり、維持管理が適切に行えるようになった。
これにより、栽培期間もと約1ヵ月伸ばすことができおり、地域の収量増につながっている。



高冷地野菜栽培の様子